

氏名	渡邊 敦之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3250 号
学位授与の日付	平成18年9月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Low-dose isoproterenol for repetitive ventricular arrhythmia in patients with Brugada syndrome (頻回な心室性不整脈を呈したBrugada症候群に対する少量Isoproterenolの治療効果の検討)
論文審査委員	教授 成瀬 恵治 教授 五味田 裕 助教授 泉本 浩史

学位論文内容の要旨

Brugada 症候群は、右側胸部誘導に特徴的な ST 上昇を認め心室細動による突然死をきたす原因不明の疾患群である。治療法としては植え込み型除細動器による心室細動発症時の除細動のみが有効である。しかし、症例の中では稀に頻回な心室細動(arrhythmic storm)を呈し、治療に難渋するものが認められる。その際の薬物療法としてはイソプロテレノールが有効との症例報告は散見されるが、系統的なものではなく使用方法についても不明な点が多かった。そこで当院で経験した頻回な心室性不整脈を呈した Brugada 症候群 7 名における少量イソプロテレノール投与の治療効果および投与前後の心電図指標の検討をおこなった。症例はいずれも男性で平均年齢は 47 歳、全例入院前もしくは入院中に頻回な心室性不整脈を呈していた。全例に少量イソプロテレノールの静注後、持続投与をおこなった。全例で投与直後より心室性不整脈は抑制された。7 名中 4 名は 24 時間投与、残りの 3 名中 2 名は 72 時間投与後に不整脈は抑制された。1 名は中止直後より心室細動を頻回に認め、イソプロテレノールの投与下にて硫酸キニジンの内服を開始しイソプロテレノールの漸減、中止に成功した。心電図指標は、静注直後に心拍数増加とともに特徴的な ST 上昇は正常化し、持続静注中は心拍数は投与前に戻ったが ST 上昇は抑制されていた。Brugada 症候群における arrhythmic storm に対しては、心拍数の上昇を伴わない程度の少量のイソプロテレノールの投与で治療効果が得られる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

Brugada 症候群は、右側胸部誘導に特徴的な ST 上昇を認め心室細動による突然死をきたす原因不明の疾患群であり植え込み型除細動器による心室細動発症時の除細動のみが有効である。しかし、頻回な心室細動を呈し治療に難渋するものが認められる。その際イソプロテレノールが有効との症例報告は散見されるが、系統的なものではなく使用方法についても不明な点が多かった。そこで当院で経験した頻回な心室性不整脈を呈した Brugada 症候群 7 名における少量イソプロテレノール投与の治療効果および投与前後の心電図指標の検討をおこなった。全例に少量イソプロテレノールの静注後、持続投与をおこなった。全例で投与直後より心室性不整脈は抑制された。7 名中 4 名は 24 時間投与、残りの 3 名中 2 名は 72 時間投与後に不整脈は抑制された。心電図指標は、静注直後に心拍数増加とともに特徴的な ST 上昇は正常化し、持続静注中は心拍数は投与前に戻ったが ST 上昇は抑制されていた。Brugada 症候群における arrhythmic storm に対しては、心拍数の上昇を伴わない程度の少量のイソプロテレノールの投与で治療効果が得られる可能性を示した価値ある業績である。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。